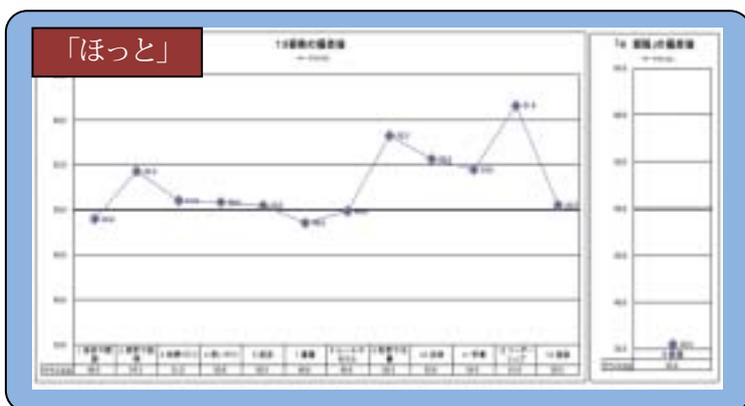


生徒指導にかかわる引き継ぎについて④

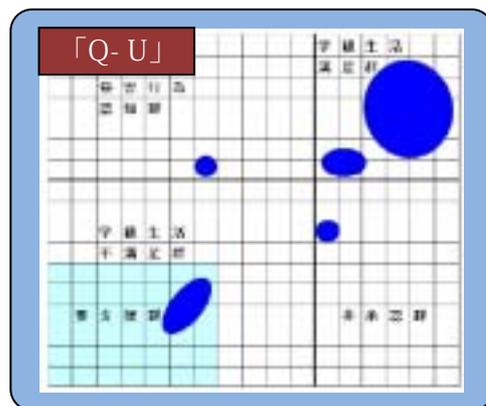
道教委では、児童生徒のコミュニケーション能力などを測定し、指導の改善充実に生かすため、北海道医療大学と協同して「子ども理解支援ツール『ほっと』」を開発しており、現在、各学校で活用が進められているところです。また、道内では、児童生徒の学校生活への適応感や、学級生活の満足度等を把握し、指導の改善充実に生かすため、「Q-U」や「アセス」を活用している学校も見られます。

今回は、こうした状況を踏まえ、「ほっと」、「Q-U」、「アセス」から得た客観的データを学校間等で引き継ぎ、進学・進級後の指導の充実に生かすための資料を作成しましたので活用してください。

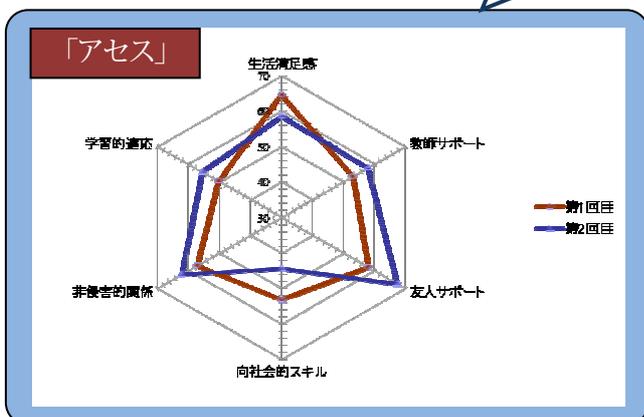
「ほっと」「Q-U」「アセス」を活用した引き継ぎの工夫



◆「ほっと」の折れ線グラフです。SS50を中心として、13項目のばらつきを読み取ることができます。学年全体や男女別のグラフなども描くことができます。



◆「Q-Uプロット図」です。学級集団の学級生活満足度を読み取ることができます。学校生活意欲の個人内評価や全児童生徒のプロット図を得ることもできます。



◆「アセス」のレーダーチャートです。6つの側面のバランスを読み取ることができます。生活満足感、学習的適応、対人的対応の側面をXYプロットで見することもできます。

【引き継ぎに当たって】

- これらのツールは、学級等の実態を客観的に把握し指導に生かすことが重要であることから、引き継ぎの際には、どのような指導を行ったのかについても情報交換することが大切です。
- 進学・進級後にデータを取り、引き継いだデータと比較するなどして、集団の成長や課題を把握することが大切です。その際、進学・進級元と情報共有するなどして、学校間連携等を一層推進することも考えられます。